

会議名	令和7年度 第1回愛荘町健康づくり協議会 会議録
開催日時	令和7年7月29日(火) 13時15分から14時50分まで
開催場所	愛荘町立保健センター
出席者	<p>【委員】12人</p> <p>矢部隆宏 曽我幸史 西村ふき子 宇野久七郎 村西杏優 小川俊子 平野雅穏 村西範彦 中村恭子 稲岡智加 三浦寛二 生田美孔</p>
欠席者	【委員】 なし
事務局	木村政策監(兼健康推進課長)・北村課長補佐・豊田主査・畠 大阪公立大学 教授 都筑千景 九州看護福祉大学 准教授 藤本優子
傍聴者の数	0人
議題	健康あいしよう21(第5期)計画について
審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ○働き盛り世代における健康課題の現状について ○地域・職域での取り組みについて
問い合わせ先	健康推進課 担当 畠 あやの 連絡先 0749-42-4887

令和7年度 第1回 愛荘町健康づくり協議会 会議録

日時：令和7年7月29日（火）午後1時15分～2時50分

場所：愛荘町立保健センター

出席委員：12人 事務局：4人 欠席：0人

1. あいさつ

木村政策監

2. 委嘱状の交付

（課長：机上に交付、併せて資料について確認）

3. 委員紹介

（各委員、事務局、名簿順に自己紹介）

4. 愛荘町健康づくり協議会要綱について

（課長：協議会設置の目的等読み上げ）

5. 愛荘町健康づくり協議会会長、副会長の選出について

会長：矢部 隆宏

副会長：西村 ふき子

6. 報告事項

（1）健康あいしょう21（第5期）について

各機関の取組状況と目標について

矢部会長： それでは次第に従って進行していきたいと思います。次第5の報告事項1、健康あいしょう21第5期について、各機関の取組状況と目標について議題といたします。

まず事務局から説明をお願いします。

（事務局から健康あいしょう21概要版に基づき説明）

矢部会長： ありがとうございます。ただ今の説明についてご質問やご意見等ありましたら、どうでしょうか。平野先生よろしいですか。

平野委員： 計画の概要版としてはとても見やすく、わかりやすくていいと思いますが、一般住民がこれを読んで理解するかというとそれはなかなか難しいと思いますので、ここにいる私たちが次にどんな取組をしていくかということを考えていく、それぞれ違う立場で取り組んでいく、啓発していく必要があるかと思います。これは批判でも何でもなくて、我々がやらなければいけないことがあります。

矢部会長： ありがとうございます。他に何かご意見ないでしょうか。

「歩いてください」と言っている若い患者さんがいるのですが、その方はこの暑さの中仕事で1万歩歩いているそうで、それが既に健康づくりになっているかと思います。若い女性が特に運動習慣少ないと言われていますが、子育てやいろんなことがあって、そちらの方にそそぐエネルギーが大きいのかと思いました。

次に各機関の取組状況について、各機関、団体からご発言をお願いします。
愛荘町健康推進員協議会の西村さんからお願いします。

西村副会長： 健康推進員が減少傾向で、健康推進員自体が高齢化で若くはなりません。仕事が終わってからの60代後半から70代初めに入ってこられて、体調を崩されたり家庭の事情で辞められる方もいます。私も遅くから健康推進員になつて7年目ですが、コロナもあり健康推進員ってこんなことをするのかということがわかつってきたのが3、4年目くらいで私自身まだはつきりわかつていません。養成講座の募集をしていただいて、でも人数が少なくて、私が入った時は35、6人くらいおられたと思いますが、今は30人を切っている状況です。それでも令和7年度になって4か月経ちますが、細々といろんな計画を立てて活動しています。愛知高校からお願いされて4年が経ちますが、1年目はできなかつたのですが、今年はさせていただき、今まで2年生でしたが今年は1年生110名の大勢の中で無事にさせていただきました。そういう状況で幼稚園、保育園、字のサロンに出かけて行って高齢者の方を対象にさせていただいたり、コロナが明けましたのでびんてまり体操の出前講座の要請がきてそちらの方にも行かせていただきました。人数は少ないですが、いろんな方に、町民の方に知つていただくように活動していきたいと思います。健康推進員自体を知らないという方もたくさんおられるので、大きいイベント、66祭りなどに出かけて行って声掛けをしていきます。PRも兼ねてさせていただきたいと思っています。

矢部会長： 募集のかけ方、何かされていますか。健康推進員協議会への入会についてなど。

西村副会長： 養成講座をしていただいています。半年間受講し、その後健康推進員になります。

事務局： 募集は広報、防災無線、LINEを使って周知をしています。

西村副会長： 知り合いに健康推進員になってと言ってもなかなか条件が難しい。あまり強制もできませんし、断られたらそれ以上できませんので、難しいことではあります。

矢部会長： ありがとうございます。国民健康保険事業の運営に関する協議会の宇野さんお願いします。

宇野委員： 保険事業は基本的に国民健康保険の税率を決めるのが我々の役目ですが、令和9年の県下統一に向けて進めています。県下統一になると今愛荘町で払っている国民健康保険の金額より高くなります。急にならないように徐々に基

金を取り崩しながら進んでいるところです。

特定健診を無料で受けてもらったり、今年からは帯状疱疹ワクチン接種や特定健診の中に口腔ケアを入れてもらって、保険のお金がかからないようにという考え方で事業を進めています。何かこういうことがあったらいいのにな、ということがありましたらお声がけいただき、そういう取り組みも取り入れていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひします。

矢部会長： ありがとうございます。小中学校養護教諭代表秦荘中学校村西先生お願ひします。

村西杏委員： 学校の保健室では来室した児童生徒に手当てるだけでなく、生活習慣の改善や睡眠に対する指導などを行っています。今年度から中学校でもフッ化物洗口を実施して虫歯予防をしているのと、う歯予防対策事業として中学校1年生対象で歯科衛生士さんに来ていただいて虫歯予防の授業を1クラス1時間行っています。小学校の方でも来てくださっていると思います。毎年助産師さんに来ていただいて、性感染症や妊娠についてのお話を各小中学校でしてもらっています。

職員の健康に関しては、毎年職員健診はありますが、なかなか改善が難しいのが現状かと思います。

子どもたちはタブレットやスマホを使う機会がすごく多いので、睡眠不足の子が多いのが現状としてあります。学校としてもSNSの使い方やブルーライトを浴びる時間を少なくするように指導を今後も行っていきたいと思っています。

矢部会長： ありがとうございます。東びわこ農業協同組合から小川さんお願ひします。

小川委員： 東びわこ協同組合が地域の人に向けて取り組んでいることとしては、生活習慣病の発生予防と重症化予防ということで、JAドック健診活動をしています。愛知川店の会場では今年度は2日間、61名に受けいただきました。身体活動改善に向けて女性部の100歳プロジェクトの中でミニ運動会を今年度は11月4日に計画していて、60名くらい参加していただく計画です。毎年行っている健康講座、さんさん講座を行っていますが、バランスボールや元気アップ体操、フラダンスなどを秦荘支店でしています。ハンドベルやミニ鍵盤脳トレなど、今年度77名が受講していただいています。

次世代の健康、農教育活動ということでちやぐりんキッズクラブを開催していて、管内の小学校4年生対象で食の勉強会、田植えや稻刈りなど食の大切さを伝えていくことや、クッキング教室、男の料理教室、東円堂の子ども食堂支援活動等を行っています。高齢者へ向けての活動としては音楽脳トレ教室やスマホ教室を開催しています。活動としては以上です。

矢部会長： ありがとうございます。NPO 結の家から中村さんお願ひします。

中村委員： 私は高齢者の介護保険事業の一つである通所介護事業「ヘルス＆ワーク俱楽部」というところに毎日勤務しています。イートインスペースを活用して半日型の通所デイをしています。介護度は要介護 2 から要支援の軽めの方が対象で、イートインスペースの有効活用し、何か歌声が聞こえる、楽しそうに笑ってはる、というのを買い物の人に来た人が覗いてみて、楽しそう、どうやったら行けるの？という形で聞いてくれるという形で私自身も楽しみながらさせていただいています。半日なので終わった後お買い物をして帰られる、そのお買い物が生活のリハビリになっているといいますか、食材を求めて孫の好きなものを買って帰るとか、お店の中を歩いて買い物をされています。買い物をして帰ったら孫が「ありがとうございますおばあちゃん」と言ってくれるというような形で本人さんたちの家族内の役割が生まれたり、機能的によくなったり、維持されている方が多いというような状況です。デイサービスのためのデイサービスではなく、生活の一部としてそういうところが自然に入ってくるような形っていいなあと思います。

今は夏休みなので涼しいし食べものはすぐ横に売ってるしで小中学生のたまり場になっています。親にとっても顔見知りの人が絶えずそこにいるので安心できる、楽しめる場所になっているかと思います。高齢者の方がデイに来られていますが、そこに子どもが来るとみんなが元気になるという体験を紹介させていただきます。

一個人としては、田舎ですが地域の活動という機会はとても減ってきていると思います。当然女性会もありませんし、自治会の活動にしても家から 1 人出ればいいという形で、近隣の方とあいさつを交わすくらいで後はほとんど接点がない状況です。このままでは高齢化が身近に来ていますのでどうなっていくのかという不安はすごくあります。空き家も増えてきているし、どうなるのかということは感じます。そういう中で、先ほど健康推進員さんや JA さんもおっしゃっていたんですが、いろんな活動をしようと思っている方がたくさんおられて、提案してくださっていたのは楽しそうなメニューが多かったです。愛荘町の計画にもありますが、はじめよう！続けよう！楽しもう！なので、はじめようと思うのは楽しそうと思わないと始められないし、楽しそうと思われなければ続けられないと思うので、やっておられる情報を住民の方にも、たぶん発信はしてくださっていると思いますが、なかなか気に留めるということが私も少なかったと思うので、そういうところを活用して楽しく健康づくりが一人でも多くできるといいなと感じました。

矢部会長： コロナがかなり関係性のシャッターを下ろした感じになっているかと思いますが、ここからまた全員で盛り上げていければいいかなと思います。
愛荘町商工会青年部から村西さんお願ひします。

村西範委員：青年部として、前回の会議にも参加していましたが、我々世代は健康に対する意識が低い。そもそもそこからのスタートとなりますが、せっかく青年部という会に入らせていただいて、セミナーなど主催する立場にもありますので、健康に関するセミナーを開催しました。今までにない切り口だったのでそれなりに効果はあったかと思います。それを通じて一番強く感じるのは、健康意識はまだまだ低い。身体的な健康というより、どちらかというと心の健康の方が傷みやすいというか、そっちの方がケアすべきことなのかと思ったりもしますので、そっちにも注力してウエイトをおいて、そういう部分での健康を高めていけるように、これから課題はたくさんありますが、取組を進めていければと思っています。

矢部会長：ありがとうございます。本日のねらいとして働き盛り世代の健康づくりの取組について後で協議します。

愛荘町図書館から三浦さんお願いします。

三浦委員：図書館は2館あり、年間合計12万組くらい来られます。公共施設としては非常に多くの方が、しかも世代的にお子さんからお年寄りまで来られますのでPRするにはいい場所ということで、健康推進課と連携して、毎月テーマをいただいて、テーマに関連する本やパンフレットちらしを置いたり、健康に関する講演やイベントなどを図書館でさせていただいたりしています。特に毎月コーナー展示のテーマをいただけるのは図書館としても非常にありがたい。図書館の職員も何をしていいのかわからないところもありますので、非常にありがたいですし、お客さんを見ていると健康というのは非常に関心のあるテーマですので、多くの方がコーナーを見ているなというところです。図書館ですので情報の提供ということで、例えば秦荘図書館で「ほスピたな」や愛知川図書館では医療情報コーナーを設けています、病気になった方や特に愛知川図書館では医療従事者向けの本を充実させて、地域の医療を支えるとともに、看護師さん向けの本でしたらかろうじて一般の方が読んでも理解できる内容の本が多いですし、書いている内容もしっかりしているということで、そういった資料を提供して町全体の健康に対する意識やサポートする形で進めさせていただいている。

矢部会長：ありがとうございます。給食センターから生田さんお願いします。

生田委員：健康あいしよう21に続いて、食育推進計画を昨年度見直したところです。一番重点的に捉えているのが小中学生の欠食率の増加というところで、またそれが子育て世代にもつながっているという現状がありました。この夏休みに親子ふれあいクッキングを開催しますが、その中で親子でも参加可能、家族以外の友達でも参加可能としまして、健康づくりはもちろん心の食育の方を重点的に啓発していけたらいいなというところで料理教室を開催する予定と

なっておりました。去年までは紙ベースで食育だよりと献立を子どもたちに配っていましたが、今回は保護者にアプリを入れてもらって、保護者も見られるように家庭にも配信しています。

矢部会長： ありがとうございます。曾我先生お願いします。

曾我委員： 歯科は数年前から妊婦の歯科健診を各歯科医院で行っておりまして、今年から特定健診で一般の方も歯科健診を受けていただいています。歯科だけではなく歯周病もウエイトを置いて、健診させてもらっています。普段歯科になかなか来られていない方がいい機会だということで来ていただいているような感じもあり、いい企画だと思っています。

フッ化物洗口が今年から中学1年生も開始しています。登校したら教室に行く前にフッ化物洗口してから各教室に行くと聞いております。

矢部会長： 中学生の虫歯率はどんな感じですか。

曾我委員： だいぶ低いです。その中でも愛荘町はちょっとまだ高いですが、全体的には下がってきています。13歳中学校1年生で永久歯0.5本。僕らの世代、昭和世代は4、5本くらいでしたが全体的には下がっています。ただ、ほとんどのお子さんはないですが、一人で複数の虫歯があるという状況で格差があります。

矢部会長： ありがとうございます。健康健康福祉事務所の稻岡さんお願いします。

稻岡委員： 保健所でも特に働く世代の方の健康づくりということで、大きな事業所とのつながりが多いですが、元気元気レターという名前で事業所に2か月に1回くらい健康情報紙という形で保健所からいろいろテーマを決めてメール配信などしています。今年度は減塩と高血圧やがんの対策、自殺対策のことをテーマにしたり、いろいろ幅広い分野ができるだけ職域の方にも知っていただくように情報発信をしています。地域職域連携という事業を保健所でも働き世代の健康づくりということでさせていただいているが、今年度は大きな事業所になってしまいますが、以前実施したアンケートの中でメンタルヘルスが課題だと答えた事業所に対してヒアリングなどに行って、保健所としてメンタルヘルスのことで事業所と一緒にできることがあればしていこうかと計画段階ですがそういったことを考えています。

フッ化物洗口は愛荘町では中学校1年生までされていますので、湖東圏域として虫歯の減り方がどうであったかとか、学年でどんな差があるかとか、フッ化物洗口についてもデータ分析して、皆さんに還元していこうと思っています。ぜひ学校の先生方や保護者の方にも見ていただけるような資料も作れたらと思っていますので、現場の先生方大変かと思いますがよろしくお願い

します。

7. 協議事項

(1) 働き盛り世代における健康課題の現状について

矢野会長： ありがとうございます。続きまして次第6の協議事項に移ります。

働き盛り世代における健康課題の現状について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

矢部会長： ありがとうございます。ただ今の説明についてご意見ご質問等ないでしょうか。

平野委員： 男性が悪いですね。愛荘町の悪い部分はと説明してくださいましたが、男女格差がすごいですね。それは滋賀県全体がそうだと思いませんが。滋賀県は健康寿命がすごくいいという結果が2021年に出で新聞にも取り上げられました。1990年と比べて2021年、30年経ったらすごくよくなっています、日本全体で1、2位を争うくらい健康寿命が伸びましたという結果が出ていますが、1990年から2021年の間で滋賀県が何か特別に取り組んだことがあるのか、このことに取り組んだからすごくよくなったと言える何かがあるのかというと、今のところ何もないです。ひとつのリスク因子、例えば喫煙率が下がったからそのおかげで健康寿命がすごくよくなったというような理由はないので、たまたま後から振り返ってみれば30年間ですごくよくなっていたという結果なので、これをやっておけば大丈夫というものがないので、もちろん痩せた方がいいし、たばこは吸わない方がいいし、お酒もたくさん飲まない方がいいのですが、それはそれで必要なことですが、それよりも楽しく皆さんを取り組んでいることを地道に続けるとか、今までにある資源とコラボするとか、より住みよい町をつくるということが結果メタボや指標もよくなるという風に思いますから、特別な正解があるわけではない、と思っておいていただけるといいかと思います。

衛生科学センターがデータを集約して持っていますが、まだ誰もが見られるウェブサイトのようなものはないので、9月を目標にウェブサイトを整備して指標を県民に提供できるようにしようという準備をしている段階です。昨日話を聞いたので情報提供させていただきます。

矢部会長： ありがとうございます。他に何かご意見ご質問はないでしょうか。

村西範委員： 今回抜粋されているいろんなファクターがありますが、全部というわけではないですよね、愛荘が特に悪いというか、特筆するというのを挿い摘んでいるということですね。

事務局：全部ではないです。他にもいっぱいあります

村西範委員：実際年齢を重ねていくにつれて、健康体になっていく人は僕のまわりにはあまりいなくて、どちらかというと太っていったり不健康になっていく人たちが割合として多い気がします。従業員でもそういう子がいて、高卒で入ってきて2年、当時から比べたらひとまわりくらい大きくなつたような、同じように仕事していて何も変わりないのになぜか太っている。何でなんでしょうね。ジムやフィットネスがあるので、そういうのに行く人も増えているのも確かです。健康意識に対しては、高くなつてきているんでしょうが、一部の人間だけで、全体的に浸透してきているかというと、まだ健康意識は低いと感じる部分はあります。目の前の仕事で精いっぱいというのもあるでしょうし。意識が変わってこないと取組をしたとしても成果が出にくく感じます。

矢部会長：ありがとうございます。若い方は働き盛りの人など、相当無茶をしてもめったに倒れるようなことはないですが、倒れてしまうとお年寄りが倒れるのとは訳が違います。ものすごい悲劇というか社会的にも大損失になつてしまします。誰一人倒れてほしくないのですが、多少小太りであっても、先ほどの急に太ったとおっしゃっていたのはひょっとしたらストレス太りかもしれません、多少太っていても急に倒れるということは少ないと思います。高血圧だけは脳卒中につながつてしまつて、それだけは何とか常日頃からチェックしておいてほしいと思います。これ（資料）で見ると肥満と高血圧と糖尿病、糖尿病の人でもものすごく悪い人でも若い人は急に倒れるという人は少ないですね。将来的に腎臓が悪くなつたり目が見えにくくなつたりというのはもう少し先の話で、そうなつてからでは遅いけれども、その時は歳をとっているから、仮にそうなつたとしても悲劇率は少ない。若い人が倒れたり目が見えなくなつたりしたらこれは大損失です。誰一人若い人は倒れてほしくない。

健康づくりのための取組は何をしようと考えておられますか。

（都筑教授より厚生労働科学研究の健康寿命延伸につながる地域・職域連携の推進のための研究の趣旨等について説明）

矢部会長：ありがとうございます。愛荘町の人口ピラミッドのグラフを見ましたが、非常にやばい状態というか、（若年層が）すごく細くなっている。働く世代が働かなくていい年齢でも働かなければならない時代に入つていて思ひますので、そうであればやはり少しでも現役で働くためには若い頃からの健康づくりというが必要だと考えます。よろしくお願ひします。

都筑教授：皆さんが言つてた楽しく自然に、いろんな健康支援が使えるようにな

ればいいと考えています。難しいと思いますけれど、一緒に考えていければと思います。

平野委員：研究班で何か考えて何かやるつもりだということではないですね。

都筑教授：基本的には愛荘町さんもお互い健康地域職域連携を進めていこうという形で一緒にさせていただく形になりますので、一方的に何かをするのではなく、愛荘町でどうしていったらいいのかと一緒に考えさせていただきながら進めていこうと思っています。

平野委員：愛荘町が何か考えた時に相談にのってくれるというイメージですか。

木村政策監：共に、というところになりますが、先ほど示した結果というのは国民健康保険の方の結果で、愛荘町で知りえる情報は地域の情報、特に国保の人の情報に限られています。仕事をされて、ゆくゆくまた愛荘町に戻ってこられるaosを思うと、職域の時代、働き盛りの方々をいかに健康で高齢期もいってもらうかを思うと、どこの市町も同じですが、職域との連携というのができていないのが町には課題があるというところで、ちょうど研究班のお声もいただいたので共にそういう情報も有しながら、このメンバーでできるところは寄り添いながら、それぞれの情報を一にしてどんな形で連携してできるかというところもご審議いただきながらやっていきたいと思っているところです。

平野委員：愛荘町人口たかだか2万人です。職域と考えると、愛荘町で働く人よりも外に出て働く人の方が多いと思います。そうするとどう取り組むか難しいなと思いますが、一方で愛荘町にもたくさん企業があって、愛荘町で勤めている若い人たちの健康課題をそのまましておいていいとは思わないでの、何かしらできると本当は、自分のところの会社の社員は自分のところで何とかしなければいけないと思っているとそれは難しくて、みんなでこういう案もあるよというのが出せると本当はいいですよね。

先ほどの話で思ったのは、楽しくないですけれどメタボ健診今40歳以上だから20歳以上にメタボ健診するとか、例えはそれも一つの手だと思いますし、商工会だけでは絶対できないことなので行政も一緒にやる必要があると思います。メタボ健診にひっかかりたくないからと運動がんばって痩せるとか走り始めるというのはよくある話なので、それが20代でもできると例えはそれは一つの例かとも思います。

最初に皆さんも仰ったそれぞれの地域の取組やそれぞれのステークホルダーの取組は、そんなことをやっているのかということがたくさんあったので、コラボするとできることがあるんじゃないかと、今すぐに何かアイデアがあるわけじゃないですが、コラボしたらいいかなとも思いまし

た。

都筑教授：地域職域連携の進め方としては、在勤在住によらずという考え方ですで、自治体としても住民さん主体となります。全国で展開されるとどこかにその人がいて、どこかで健康支援が受けられるという形が、最終的にはそうなるのが理想かと考えておりますので、愛荘町に働きに来られている方も同じように関わっていくような、そういうことが基本的な考え方にはなっていくところです。

(2) 地域・職域での取り組みについて

矢部会長： ありがとうございます。地域職域での取り組みについて事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

事務局： ありがとうございます。住民向けだけではなく、職員向けにもいろいろと取り組んでいただいていることを聞かせていただいてありがとうございます。

村西範委員：会社としてしていることというと、年に一度の健康診断、35歳以上は人間ドックというのは唯一コンスタントにしているのはそれくらい。従業員、スタッフに何か取り組んでいることある？と聞いたらほとんどがないと。ただ、割とジムに入会している人はいます。行ったり行ってなかつ

たりだと思いますが、企業として事業として何か取り組んでいるわけではないですが、個々としてそういう活動、取組をしている人も一部います。ただ、企業体として何か取組の方向性や活動を推奨したりはしていません。たばこについても吸う人も実際まだいますし、ただ10年前と比べると喫煙率はすごく落ちたので、たばこも当然外でしか吸えないです。そういう意味では年々健康意識というか健康づくりには自然とつながっているのかとは思います。

健診に行った時に保健師のアドバイスをもらいますか、というのがあります。僕自身もチェックしていないですし、たぶん難しいからチェックしない人の方が多いのではないかと思います。ただああいうところからではないかと思います。

何か取り組みやすいハードルの低いところからスタートできる何かいいアイデアがあればやってみる価値は十分あるかと思います。

平野委員： そういう一つ一つの会社の声を拾うことがまず大事だと思います。この会議体だけでは限度があると思いますので、それぞれの会社が悩んでいること、実はもう既にやっている取組があるのかもしれません。

私が知っている15人くらいの社員で朝ごはんを出す企業さんがあって、若い子が朝ごはん食べてこないから朝7時半に女性の社長さんがごはん作って待っているみたいな、それをやり始めたらすごく効率が上がってよくなつた、ということも聞いたことがあります。でもそれは15人規模だからできるのであって、大きくなるとそれはなかなかできなかつたりしますし、解決方法って、これやっておけばいいということはないと思いました。

さっきおっしゃった保健師の指導を受けたくない、受けるにチェックする人はいないけど、メタボ健診の効果は、メタボ健診に引っかかって特定保健指導になりたくないからだから痩せると言っている、それがけっこうモチベーションになっていたりする、40歳以上の縛りがあるので、ネガティブですけれどそのモチベーションを20歳以上に適用するというのもひとつの手ではあります。でもそんなネガティブなモチベーションではなくもっと楽しく働いて自然と健康になっているという愛荘町になるのが本当はベストです。私もこれをやっておけばいいというのはありませんが、企業のいろんな話を直接聞いて、一つ一つそれに向き合って解決するにはどうしたらいいかというのを寄り添う方向もありかなと思いました。

村西範委員： 例えば、すごく健康な社員が増えたら地方税を減税するとか、そうなったらめちゃめちゃがんばるかと思います。

都筑教授： 国の経産省が健康優良法人などいろんな取組があるということで、前に

滋賀県の方にお話していただいたのは、地域まるごと健康経営という形で滋賀県で認定をする事業所さんのサポートを行政がしますという取組もあったかということを聞いていますので、個人が意識を変えるだけではなく、事業所全体、特に経営者の意識を変えるのは大事なのではないかと考えます。商工会とかそういうところにアプローチできればいいなと考えます。

村西範委員： 愛荘町内で事業所団体というと唯一が商工会です。ここにほぼほぼの事業所が登録されています。大きい会社から小さい会社まで 300 社か 400 社くらい。だからもし企業体を狙うならそことの連携がいちばん手っ取り早いかと思います。セミナーも結局自由参加なのでもっと水平展開できるような何かないかと思います。

都筑教授： 健康な従業員が増えると生産性も上がるし、社員さんが元気になると会社も変わってくるから…

村西範委員： もちろん。健康経営につながりますから。

都筑教授： そのへんを後押しをしていきたいなあと思います。

藤本准教授： 高校とかに研修とか行かれるんですか。

村西範委員： もちろん行きます。

藤本准教授： その時に優秀な人材確保につながったという事例もお聞きしたことがあります…

村西範委員： そこはくすぐりどころとしてはいいと思います。実際人材に困っている企業は多いですから、それがそこにつないでいければ。

藤本准教授： 例えば研修させていただくとなった時に、我々健康づくりサイドからいうよりも実際に同じくらいの企業・事業所さんで実際こういうことに取り組んだら例えば離職率がゼロになりましたとか、メンタルヘルス心を病む休職者が減りましたとか、実際に何年も求人かけてもなかなか来なかつたのが何人採用につながりましたとか、そういう方が経営者の方には割とすっと入るのではないかと思います。

村西範委員： そういう切り口はいいと思います。

都筑教授： 成功例を作って、成功例を広げてあげるととつかかりになるのかなと。

村西範委員： 中小零細企業の一番二番の課題は人材と売上確保というところです。圧倒的にそこなので、そこにフォーカスした健康に紐づけた取組は効果というか関心は強いと思います。

藤本准教授： 経営者の方が問題視されているのは心の健康ですか。

都筑教授： 休まれると困りますよね。

村西範委員： それはもちろん無茶苦茶困ります。体が不健康な人よりもどちらかというと潜在的に心がしんどいっていう人の方がまだ割合としては多いというか、それが年をとっていくにつれて体の不健康な人たちが増えていくと思いますが、まだ僕ら体は動くので。

藤本准教授： メンタルヘルスとかでいくと心の食育とかこちらでは言っていたかと思いますが、心の食育というのは小学生向けで、キーワードが出ていたかと思いますが。

生田委員： 料理教室で地域の方と連携して給食センターで事業を計画しましたが、今年は地域おこし協力隊と連携して、感謝の気持ちを育てようとか、今回作る側にまわってみて、子どもたちが実際にどう感じるかというところを育てていこうという内容の事業ですが、いつもは楽しんでつくろうねとかが大きな部分でしたが、心の食育を大きく表に出しながら計画しました。

藤本准教授： 私たち今まで愛荘町さんといろいろお話を聞かせていただいて、今回愛荘町さんをモデルとして一緒にさせていただきたいと思ったのは、みんなの顔がつながっていてコンパクトな市町のモデルの形として愛荘町さんの強みがたくさんあるのでそこを活かさせていけないかなというところが実はあったのですが、図書館でもテーマを決めた展示をしていただけるというのがあるので、例えば商工会さんの方にメンタルヘルスとかの切り口としながら研修と、たぶんそこで働いている方のお子さんが本を読んでいかれてとか、その後ご家族は図書館に行かれたり、生活の中で切り離せないものだと思うので、この機会に一体となって、それこそなんとか予防週間ではないですが目に触れる機会が多いと行動変異を起こしやすいと思うんですけど、ばらばらで取り組むのはもったいないとお聞きしながら思いました。

都筑教授： 皆さんそれぞれでいろんなことをされているので、それをうまくつなげて一緒にしてまた違う形で他の人に広げていくとか、方法はこれからご相談していろいろ考えていくことになるかなと思いますが、健康な働き世代の方を増やすということを目的に協力してやっていけたらなと思います。

矢部会長： 活発なご意見ありがとうございました。事務局にお返します。

事務局： 会議出席のお礼と次回の会議の案内